



歯周治療を、この本で、ここからはじめよう！

Ishiyaku the BASICS

新ベーシックペリオ

ここからはじめる歯周治療の基本と実践

斎田寛之・鎌田征之・芝多佳彦・福場駿介 編著

A4 判／232 頁／定価 9,900 円（本体 9,000 円＋税 10％）／医歯薬出版（2023 年 9 月）

私はいつも「基礎なくしてその先はない」と講演や指導先でお話しています。歯科衛生士養成校で習っただけで歯周組織検査を完全にマスターするのはまず無理です。卒業後すぐ歯科医院に勤め、歯周組織検査（的なこと）をしつづけていると、なんだか、「歯周組織検査ができる歯科衛生士」になったような気がしてきます。では、歯周組織図を正確に描くことはできますか？

きちんと練習をし、確実に歯周組織検査ができるようになると、歯周組織の構造を知らずに検査などできるわけがないことがわかります。X線写真や口腔内写真の見方がわかると、規格性のない写真が役に立たないことがわかります。このように、やってみてはじめてわかることがたくさんあるのです。

本書には歯周治療の基礎がすべて網羅されているといってもいいでしょう。圧倒的な量の症例写真や図表が掲載されているので、歯周組織検査から歯周外科治療まで、あたかも自分が行ったかのように「体験」することができるのです。実際に歯科衛生士は行わない、歯周外科治療時の切開や縫合についてもくわしく説明されていますから、「体験」するように読むことで、アシスタント業務がとてもスムーズになることでしょう。こういう理由でここに切開線を入れ、この方法で縫合するのだという「理由」

がわかります。日常臨床で忙しい歯科医師になかなか聞けないことまで解説されています。

私は日常的に口腔内写真撮影を行っているので、写真撮影の難しさはよくわかります。角度によって患部がはっきりと見えなかったり、以前と比較ができなかったり、見直すと少量の唾液が残っていて見たいところが見えなかったりすることもあります。この本は症例写真のクオリティもすばらしく、“よくこんな写真を撮ったもんだ”と驚くようなものもあります。長い臨床経験のある私も、見たことがないような症例もありました。“こんなことまで書くのか！”と笑ってしまうマニアックな書き込みもありました。それらをすべて「体験」することができるわけです。まるで旅行のガイドブックのように、その国のすべての名所を旅するような楽しさです。

ぜひ、本書を院内勉強会のテキストにしてみてください。歯科医師と歯科衛生士がともに学ぶのがよいのです。日本歯周病学会の歯周治療のガイドラインにも則っているのです、各自が『歯周治療のガイドライン 2022』（日本歯周病学会編、医歯薬出版刊）をいっしょに開きながら学ぶことをお勧めします。本書を読んで気づいたことをガイドラインに書き込むのもよいでしょう。歯周治療の本当に大切なことを、基礎から学ぶことができる 1 冊です。